

兵庫県保険医協会 北阪神支部 第35回総会

◇記念講演 (14時45分～)

「こわいもの知らずの病理学講義 -がんは『運』である-

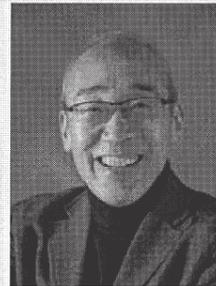
講師 大阪大学大学院 医学系研究科・病理学 教授 仲野 徹 先生

「がんは運である」などと言うと不謹慎だと思われるかもしれませんが、がん発症の分子メカニズムを知ると、そう考えるのがきわめて妥当だと思えてきます。運悪くがんになったと言いますが、いまや日本人の二人に一人はがんと診断される時代です。むしろ、罹ってもしかたないと考えるべきでしょう。その最も大きな原因は高齢化、すなわち、がんは長寿の宿命なのです。

がんの分子レベルでの理解から、分子標的療法、そして、がんの免疫療法、さらに、ゲノム解析を生かしたがんの治療法選択まで。最近のトピックスを交えながらわかりやすくお話いたします。【仲野 記】

【ご略歴】【なかの とおる】 1981年大阪大学医学部医学科卒業。84年大阪大学医学部助手(北村幸彦教授)、89年ヨーロッパ分子生物学研究所(EMBL)客員研究員(Thomas Graf 教授)、90年京都大学医学部 医化学第一教室講師(本庶佑教授)、95年大阪大学微生物病研究所教授(遺伝子動態研究部門)、2004年大阪大学大学院医学系研究科 教授(病理学)、大阪大学大学院生命機能研究科教授(時空生物学)。

主著:『(あまり)病気をしない暮らし』『こわいもの知らずの病理学講義』(晶文社)、『エビジェネティクスー新しい生命像をえがく』(岩波新書)など。



- 日時 10月17日(土) 15時15分～16時45分 ※要事前予約 先着40人
- 会場 伊丹シティホテル2階 朱雀の間 (伊丹市中央6丁目2-33 TEL072-777-1181)
- 対象 協会会員の医師・歯科医師、看護師、スタッフ
- 定員制 ※COVID-19拡大防止のため必ず事前申し込みの上、マスクの着用、等ご協力ください。

お問合せは 協会事務局 TEL078-393-1801 小川・大野まで

【FAX申込み 078-393-1802】※ご希望の欄に○印を記入ください

お名前	職種	14:30～ 総会議事	15:15～ 記念講演

市・町 _____ TEL _____ FAX _____

医療機関名 _____ ご担当者 _____

兵庫県保険医協会

北阪神支部 ニュース

2020年10月5日号 No.308

発行者 兵庫県保険医協会北阪神支部
支部長 中井通治

〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31
神戸フコク生命海岸通ビル5階

☎(078)393-1801 FAX(078)393-1802

在宅医療研究会「パーキンソン病について～パーキンソン病のこれまでとこれから～」

パーキンソン病への理解を深め 患者治療の充実へ

副支部長 川村 雅之



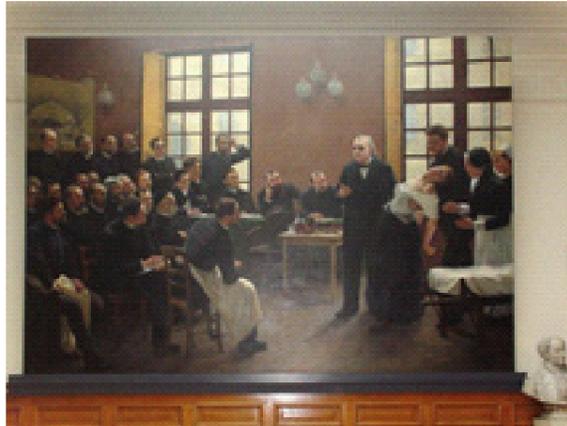
パーキンソン病の最近の治療について詳しく解説

支部は9月19日に在宅医療研究会を伊丹市内で開催し、会員や介護事業所職員など27人が参加した。「パーキンソン病について～パーキンソン病のこれまでとこれから～」をテーマにつちやま内科クリニック(西宮市)の土山雅人先生が講演した。副支部長・協会副理事長の川村雅之先生の感想文を掲載する。

まずはパーキンソン病(以下PDと表記)の概要と歴史からスタート。人口10万人当たり100～150人、性差はない。パーキンソンが発見した時には注目されず、50年以上経ってシャルコーが再発見してから注目されるようになった。因みにパーキンソンは医学以外にも地質

(次のページに続く)

(前のページより)



バビンスキーが助手を務めるシャルコーの講義

学者としても知られており、メガロサウルスの命名者だそう。PDで特徴的なレビー小体のレビーはアルツハイマーの弟子で、先ほどのシャルコーの講義で助手をしていたのがバビンスキーだとか(写真)。雑学も増えた。

さて、PDの運動症状は運動緩慢と静止時振戦か筋強剛あるいはその両方があるのが特徴で、進行すると姿勢反射障害が現れる。しかし20年以上も前から便秘や疲労、睡眠覚醒障害などの非運動症状が現れることがわかって来た。

その時点で気づき対応することが今後の治療の課題だが、残念ながら現時点ではドーパミンのL-ドパ剤(脳内に移行しドパミンへ変化する)での補充や賦活といった対症療法しかない。しかも比較的コントロールの容易な時期は3~5年しかなく、その後は運動症状改善とジスキネジア発現の幅が狭くなりコントロールは難しくなる。クオリティーオブライフのためにも早期からの治療が必要である。いよいよ難治期に入ると手術して脳に直接電気刺激を与える方法や、胃瘻を介して持続的に投薬する方法などあるが、最近では超音波で視床の核を焼く低侵襲治療もあるそう。そして高齢発症ではより短期間で進む。日頃、歯科訪問診療で接しているPD患者さんのことが判り、収穫は期待以上だった。

研究会参加者の声

- ・パーキンソン病にかかわる歴史から、経過、治療などにつきエピソード含め興味ある講演でした。ありがとうございました。(医師)
- ・パーキンソン病の難しさを改めて学習させて頂きました。精神症状についてや、脱抑制性の精神状態については気づけていなかったと思います。発症前後20年をみる。本当に長い経過の疾患で介護する家族の支援の大事さもあらためて思いました。(看護師)
- ・自分が担当している患者さんが、どのステージにおられるのか考えながら、今後は関わっていききたいと思います。(歯科衛生士)
- ・パーキンソンの歴史から服薬について、とても詳しく知ることができました。施設の中でも本日学んだことを活かして、運動療法につなげていききたいと思います。(理学療法士)
- ・パーキンソン病の運動症状だけでなく、自律神経障害・精神症状・睡眠障害・感覚障害なども出現してくることが理解できた。(看護師)
- ・パーキンソン病の病態や病態解明の歴史または治療の歴史に大変興味がありました。パーキンソン病の運動状態や非運動状態も大切だと分かりました。また最近の薬物治療の考え方も分かりやすく教えていただきましてありがとうございました。(薬剤師)
- ・今後、在宅での療養やケアが必要になってくるであろうこの時代に在宅でのかわり等もお話いただきありがとうございました。(看護師)



幹事会だより

第397回 9月3日(木)ことば蔵 多目的室 参加8人

◆北阪神支部の会員数と組織率

9/30現在 医科352人(73%)、歯科205人(61%)

◆政策懇談会

県会議員の相崎佐和子議員との政策懇談会を同時開催した。政策懇談会では相崎議員が、県の財政が年々逼迫しており、国に減収補填のための県債の発行が可能となるよう要望してゆくと語った。また、阪神北地域における3次救急病院の不足について、県内ではもっと広域の地域もあり、地域内で協力し、救急体制を確保して欲しいというのが県の見解だと紹介。中井支部長はインフルエンザ予防接種を公費で、PCR検査の拡充を兵庫県独自で早期実現を要望し、工藤支部幹事は「県のマスクの配布についてすべての医療機関に県自身が配るべきもの。医師会や協会未入会の医療機関もあり支援はもれなくするべきだ」と指摘。太田支部幹事は子どもを含む救急外傷について、コロナの疑い患者も受け入れており、負担が大きいとして財政措置を求めた。

◆当面の支部活動

10月17日に支部総会を伊丹シティホテルにて開催予定(4頁案内記載)。

◆次回幹事会

11月5日(木)14時30分~「いたみホール 5階 会議室3」にて開催予定
お問い合わせはTEL 078-393-1817 小川・大野まで

クイズで考える日本の医療2020 ご協力を!

「みんなでストップ!負担増」

医療に関わるクイズに答えると兵庫県のグルメが当たり、患者さんに楽しく医療問題について知らせられると好評の「クイズで考える日本の医療2020」。今回のテーマは「みんなでストップ!負担増」です。

75歳以上の患者窓口負担の原則1割から2割への引き上げなどの制度改悪などがクイズになっています。患者さんにも負担増計画を知らせ、署名とあわせて負担増計画を中止させましょう。(実施期間は10/1~来年3/8まで)

クイズチラシ・署名の注文などはTEL078-393-1807まで



☆北阪神支部ニュースへの投稿を募集しています
支部ニュースへの投稿を募集しています。

日常診療にかかわることや、主張、趣味のお話などお寄せください。
TEL 078-393-1817 / FAX 078-393-1802 e-mail akane@doc-net.or.jp 担当:大野まで